

1 学校の重点目標

- (1) 人権教育を基盤とした教育活動の推進
 - ・ よりよい人間関係を基盤とする学級・学年経営の充実
 - ・ 一人一人が大切にされる授業づくり, 互いのよさを認め, 協働できる学習集団づくり
 - ・ 自立心や自律性, 生命を尊重する心や他者を思いやる心を育てる道徳教育の推進
- (2) 確かな学力の育成
 - ・ 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
 - ・ 情報教育の充実(タブレット端末の積極的な活用)
 - ・ 言葉による見方・考え方を働かせる場の工夫(言語活動の充実)
- (3) 健やかで安全な生活
 - ・ 様々な危険を自ら感知し回避することができるような力を育てる保健・安全指導の推進(KYTの積極的推進)
 - ・ 感染症等を鑑みた生活様式の徹底

2 課題と改善策(4段階評価 4:とても思う 3:思う 2:あまり思わない 1:思わない)

	評価項目	評価	評価結果と改善方策
学校経営	1 校長の学校経営方針は、保護者や地域にははっきりと伝わっている。	3.3	・ 学校だより、学級通信、学校HP・ブログ、学校運営協議会などの機会をとおして、広報活動の充実に努める。
	2 めざす子どもの姿に向かって目標を設定し努力している。	3.4	・ R-PDCAサイクルの実践をとおして、目標到達を目指す。
	3 思いやりの心を育む教育活動が計画的に位置付けてある。	3.6	・ 道徳参観、図書コーナー・掲示の充実、人権教室の充実、日々の学級経営充実を図る。
	4 先生と子どもとの好ま+しい人間関係づくりがなされている。	4.0	・ 教児同行に努め、子供や保護者の心情に寄り添う関係づくりに努める。
	5 教育の質の維持、向上をめざした業務改善に取り組んでいる。	3.2	・ 1アクション、1トライを中心に、簡素化や効率化を進める。
学習指導	6 子どもたちは、楽しそうに生き生きと学習に取り組んでいる。	4.0	・ 子供が主役の学び、言語活動の充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。(タブレット端末・電子黒板の活用)
	7 学力向上について、授業における指導法の改善に努めている。	3.4	・ テーマ研究・共同研究に基づく、系統的・実践的な教材研究の深化に努める。
	8 家庭学習の定着など家庭との連携が図られている。	3.1	・ 「やる気カード」の活用などの家庭学習充実に向けた取組に加え、タブレット持ち帰りで個別課題に対応する。
生徒指導	9 いじめや不登校など生徒指導上の課題解決に向けて積極的に取り組んでいる。	3.2	・ 担任任せにせず、全職員のチームで対応し、外部機関とも連携を図る。
	10 家庭や関係機関等の相談体制がとられている。	3.5	・ いつでも相談を受けられる体制を整え、毎週金曜日の相談日や、市・県SCとの相談体制を充実させる。
保健指導	11 子どもたちの心身の健康について、一人一人の実態に応じた手立てをとっている。	3.8	・ 一校一運動の充実を図るとともに、がんばりカードの活用をとおした日常的な体力づくりや健康に関心をもたせる授業(講師招聘)を行う。
	12 健康について、家庭や医療機関との連携を図っている。	3.5	・ 広報活動や相談体制を充実させ、健康診断後の受診案内を積極的に行う。
	13 子どもたちの安全(登下校、自然災害時)について細心の注意をはらっている。	3.2	・ 安全のための訓練を計画的な実施し、不審者対応表示(掲示)を整備する。
環境衛生	14 学校は常に整理整頓、清掃がなされ、花や緑に囲まれている。	3.2	・ 全職員で清掃、整備、緑化にあたり、きれいな花に囲まれた学校にする。
	15 学校の施設・設備は定期的に安全維持管理のための点検や補修等がなされている。	3.1	・ 安全点検に基づく迅速な校内対応と計画的な修繕依頼に努める。

3 次期に向けての取組

- ・ 各種学力調査の結果をふまえ、思考力、判断力、表現力の育成に向けて、テーマ研修・共同研究の充実を図り、課題改善に努める。
- ・ 子供一人一人の心身の状況を把握し、情報を共有し、チーム対応で個別の課題解決に努める。
- ・ 安心・安全な学校づくりのために、日常的な安全指導と環境点検と事後措置の充実に努める。